ぶぎん海外駐在員通信 ⑩

ジョホール・シンガポール経済特区について

武蔵野銀行市場国際部　シンガポール駐在員事務所所長
吉岡　洋太

武蔵野銀行は国際業務を推進する目的で、シンガポール、バンコク、香港に行員を駐在・派遣しています。
本連載は現地行員によるリレーエッセイとして毎回、現地の生活事情やトピックスをお伝えします。

はじめに

2025 年 1 月にシンガポールとマレーシア・ジョホール州の間で経済連携強化を目的として「ジョホール・シンガポール経済特区（JA-SEZ）」に関する協定が締結されました。本合意は、シンガポールのローレンス・ウォン首相とマレーシアのアンワル・イブラヒム首相の立会いのもと締結され、両国が持つ相互補完的な強みを最大限に活用することへの強い意志を示しています。

シンガポールはマレーシアから 1965 年に独立し、昨年 2025 年に建国 60 周年を迎えました。そのようなシンガポールとマレーシアの両国が、緊密な協力関係を築き、持続可能な経済成長のビジョンを示したことは、両国の将来を見据えた本気度を感じ取ることができます。

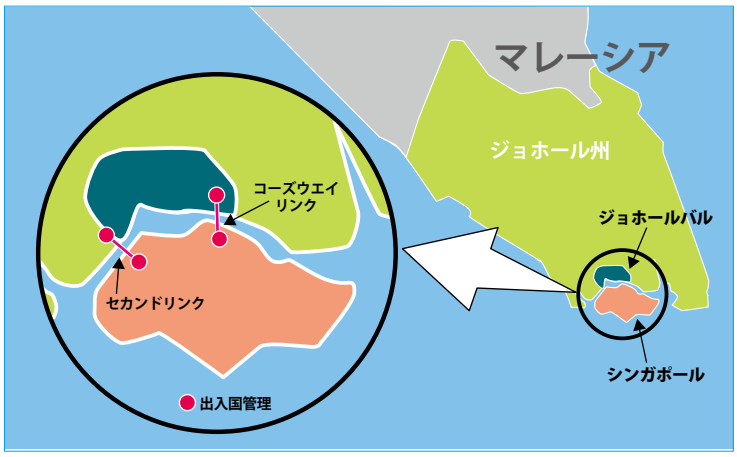
本レポートではシンガポールの中心地から車にて 40 分（国境が混んでいなければ）ほどで行くことができるマレーシアのジョホール州とシンガポールの経済特区（Special Economic Zone/SEZ）について、紹介します。

ジョホールとシンガポール

マレーシア・ジョホール州の州都はジョホールバルで、マレーシアの首都であるクアラルンプールに次いで 2 番目に大きい都市です。

ジョホールバルと聞くと、サッカーファンの方には覚えがある名前ではないでしょうか。今年 2026 年 FIFA ワールドカップが開催されますが、日本代表が 1998 年ワールドカップフランス大会のアジア最終予選プレーオフでイランに勝利し、

マレーシア・ジョホール州とシンガポール



初のワールドカップ出場を決めたスタジアムが、マレーシアのジョホールバルです（ジョホールバルの歓喜）。ジョホールバルはマレーシア南部に位置し、シンガポールに隣接しています。マレーシアとシンガポールは、「コーズウェイリンク」と呼ばれる約１キロメートルの土手橋と、西側の「セカンドリンク」※という二つの橋によって結ばれています。

シンガポールとジョホールバルを結ぶ「コーズウェイリンク」は、世界でもトップクラスの混雑する陸路の国境検問所として知られ、スクールホリデー（日本でいう学校の夏休みや冬休みなど）期間中は、３時間も待つケースもあります。また、ジョホール州からシンガポールに働きに行く労働者や、シンガポールからジョホール州に買い物などに出掛ける利用者をよく見かけます。特に、シンガポールの物価の高さは世界でもトップクラスであるため、週末になると物価の安いジョホール州へのショッピングや、ゴルフに向かう日本人駐在員で早朝からかなり混雑します。

実際にどのくらい両国で物価が違うのか、両国の物価の違いについて、マクドナルド社のビッグマック（以下、ビッグマック）と 1.5 リットルのペットボトルの水で比較しました（**図表１**）。なぜ、ビッグマックで比較するかというと、ビッグマックは、世界中でほぼ同じ材料と方法で作られていることから、一つ当たりのコストにほぼ差が無いと考えられ、異なる国・地域間でその価格を比較することで、各通貨の実質的な価値や各国・地域の総合的な経済力の目安とすることができるからです。

なお、イギリスの経済専門誌「The Economist（エコノミスト）」でも、毎年２回、ビッグマック指数（BMI:Big Mac Index）を公表しています（**図表２**）。

コーズウェイ橋（シンガポール側から見たジョホールバル）

図表１：シンガポールとマレーシアの物価比較

		ビッグマック	水（1.5ℓペットボトル）
シンガポール	シンガポールドル	6.95	2.9
	円換算 ①	869	363
マレーシア	マレーシアリンギット	515	3
	円換算 ②	515	118
倍率	① ÷ ②	1.69	3.1

（参考）：日本のビッグマックの値段は 500 円（4/10 時点）
※筆者の現地調査による作成　※シンガポールドルは 3/31 時点、当行外国為替相場仲値（125.02 SGD）を使用
※マレーシアリンギットは 3/31 時点、（株）QUICK の終値（39.17 RM）を使用

図表２：ビッグマック指数（Big Mac Index）　54 か国

順位	国	BMI（%）	価格（USドル）	価格（円）
1	スイス	48.4％	9.08 USドル	1,440 円
12	アメリカ	0.0％	6.1 USドル	970 円
15	シンガポール	▲5.5％	5.78 USドル	917 円
44	マレーシア	▲44.6％	3.39 USドル	538 円
48	日本	▲50.5％	3.03 USドル	480 円
54	台湾	▲59.6％	2.47 USドル	392 円

出典：Our Big Mac index how bueger prices deffer across borders（The Economist）
※ BMI（ビッグマック指数）は US ドル基準　※ The Economist の BMI をもとに価格を算出
※為替レートは The Economist 誌の 2026 年 1 月時点の 158.54 円で算出

※コーズウェイリンクの次に架けられた橋であるため、セカンドリンクと呼ばれています。

少し本編から外れますが、ビッグマック指数は米国ビッグマックの価格を基準にした物価指標ですが、**図表２**を見ると、1 位はスイスで、シンガポールは 54 か国中 15 位、マレーシアは 44 位、日本は 48 位です。本図表の見方としては、日本のビッグマック指数は、米国ビッグマックの価格 6.12 ドル / 個を基準で考えると、▲ 50.5 %（48 位 /54 か国）です。つまり、日本マクドナルドのビッグマックの価格でみると、日本の通貨・物価が、かなりの割安であることがわかるかと思います。話を図表 1 に戻します。水に関しては、一般的な生活必需品の一例として選びました。シンガポールとマレーシアでは、**図表１**を見ると、ビックマックは 1.7 倍、水は 3.1 倍強と大きな差があることがお分かりいただけると思います（シンガポールは資源に乏しい国であるため、水もマレーシアなどから輸入しています）。このように両国の物価にかなりの差があるため、筆者も週末はジョホールバルにゴルフに行き、帰りにはパン屋さんでパンを大量に購入する生活を送っています。

経済特区とは

経済特区（Special Economic Zone/SEZ）とは、特定の地域に特別な経済制度や税制を適用し、政策目標の達成を促すために設けられた地域のことを言います。例えば、企業にとって参入障壁が高い産業に対し規制緩和や関税優遇などを実施することにより、企業誘致し投資を呼ぶこむことができます。また、同業種や関連産業の企業が集積し、部品調達・人材採用・物流でのシナジー効果が期待できます。

成功事例としては中国の深圳（シンセン）やドバイなどが思い浮かぶかもしれません。特に、深圳は、Huawei、Tencent、BYD、DJI など世界的な企業が本社を構えており、人口は約 1,700 万人を超え、「中国のシリコンバレー」と呼ばれるようになっています。このように経済特区とは、都市そのものの性格を根本的に変えるほどの影響力を持つ場合もあります。

ジョホール・シンガポール経済特区（JS-SEZ）について

2025 年 1 月にシンガポールとマレーシアでジョホール・シンガポール特別経済区（JS-SEZ）に関わる協定が締結されました。ジョホール・シンガポール特別経済区では、シンガポールや第三国から 11 の経済セクター（製造、物流、食料安全保障、観光、エネルギー、デジタル経済、グリーン経済、金融サービス、ビジネスサービス、教育、医療）への投資促進を目的としています（**図表３**）。

ジョホール・シンガポール特別経済区の事務局へのヒアリングによれば、当該特区への企業進出に関する問合せは、直近 10 か月間で約 1,000 件に上っています。そのほとんどが中国企業（最多）及びシンガポール企業からのものであり、そのうち 10%程度が成約し、特にデーターセンター関連の案件が大きな比重を占めているとのことです。

図表３：ジョホール・シンガポール経済特区の概要

重点分野	製造、物流、食料安全保障、観光、エネルギー、デジタル経済、グリーン経済、金融サービス、ビジネスサービス、教育、医療
取組内容	●高付加価値産業に対し、最大 15 年間、5%の特別法人税率適用 ●知識労働者に対して、10 年間 15%の特別所得税率適用 ●ジョホール州の娯楽税の引き下げ ●ビザの要件緩和や特別パスの配布など国境往来の簡易化 ●「マレーシア投資促進センタージョホール支所」における投資関連手続きのワンストップ化
数値目標	●当初 5 年間で 50 件の高付加価値プロジェクト達成および 2 万人の熟練雇用創出 ●10 年間で高付加価値プロジェクトを 100 件まで拡大

※ JETRO 資料を基に作成

ジョホール・シンガポール特別経済区が注目を集める理由としては、両都市の役割分担が明確である点です。シンガポールは法制度、国際金融、研究開発、航空・海運のハブとして世界有数の競争力を持ちますが、土地や労働力に制約があり、前述のとおり、コストも極めて高いという課題があります。一方、ジョホールは土地も余裕があり、製造業の受け皿としての労働力確保も可能となります。そのため、両都市のメリットを組み合わせて、シンガポールで高付加価値業務を担い、ジョホールで生産・組立・研究支援を行うという「二極補完型」の産業構造が成立します。

2026 年 12 月にはジョホールとシンガポール北部が高速鉄道で結ばれる予定であり、これにより両地域間の通勤や人の流れが大きく変わってくるものと思われます。シンガポール企業がジョホールへオペレーションを移転することと、ジョホール在住者がシンガポールで働く生活スタイルが今後さらに広がり、経済特区としての効果は一層高まると考えられています。具体的な取り組みの一例として、パスポートを不要とする QR コードによる通関システム導入が進められており、これにより通勤や人の移動に伴う障壁が低減しつつあります。

おわりに

ジョホール・シンガポール経済特区は、マレーシアとシンガポールを更に大きく発展させる魅力あるプロジェクトです。特に、私自身もジョホールを訪れた際、2026 年 12 月完成予定の「越境鉄道」やシンガポールとクアラルンプールを結ぶ

建設中の JB セントラル駅

高速鉄道（ジョホール経由）の駅舎の建設が着々と進んでいるのを見ると、その将来性に大きな期待を抱きました。また、将来的には香港と隣接する深圳が成功したように、ジョホール・シンガポール経済特区も都市そのものがドラスティックに変わっていくものと思います。

皆さんもシンガポールを訪れる機会があれば、チャンギ国際空港から 1 時間程度で行くことができるジョホールバルに足を延ばしてみてはいかがでしょうか。現地の変化を肌で感じることで新しいビジネスのヒントを見つけることができるかもしれません。